

## 2-3 市民意向の把握

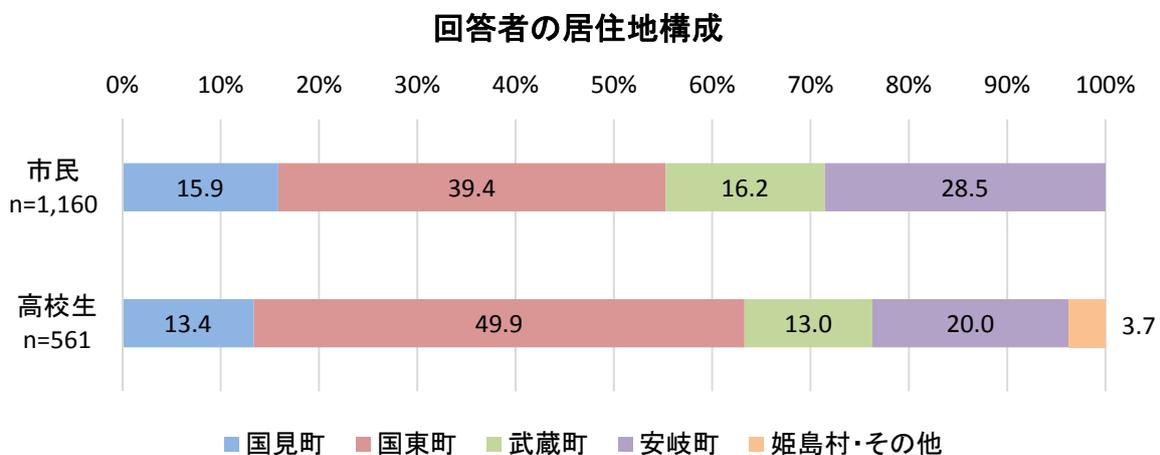
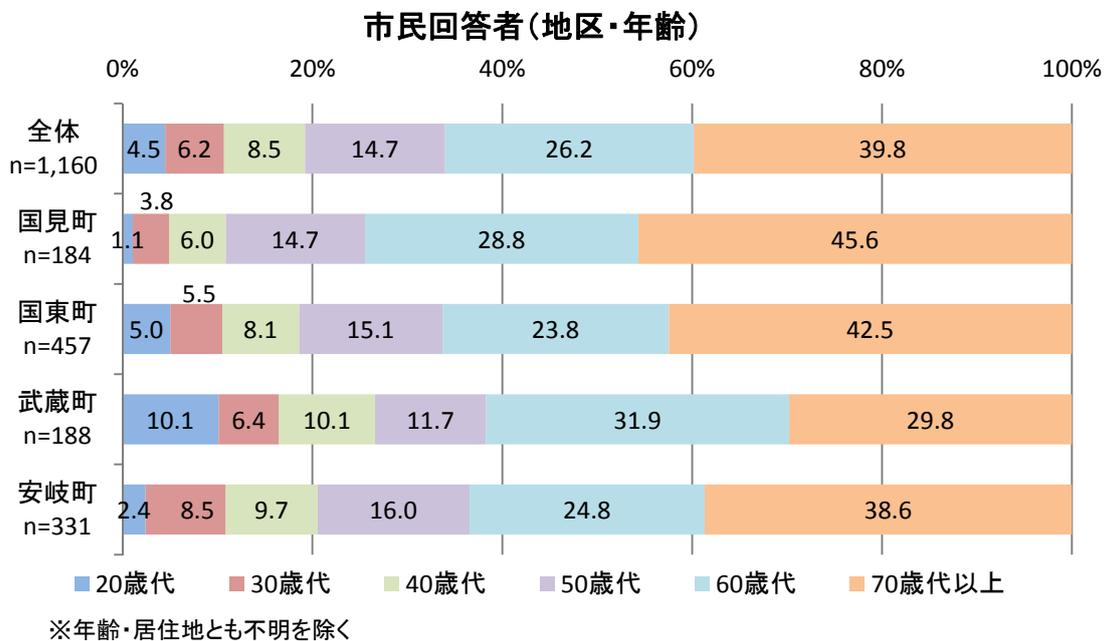
### (1) 市民・高校生アンケート

#### ①調査概要

区分	市民アンケート	高校生アンケート
対象	市内に居住する18歳以上市民 3,000人	国東高校、双国校の高校生徒 (1～3年生)
回収数	1,179人(回収率 39.3%)	561人
調査期間	平成28年9月14日～10月5日	平成28年10月30日～11月4日

#### ②調査結果

##### 1) 回答者属性



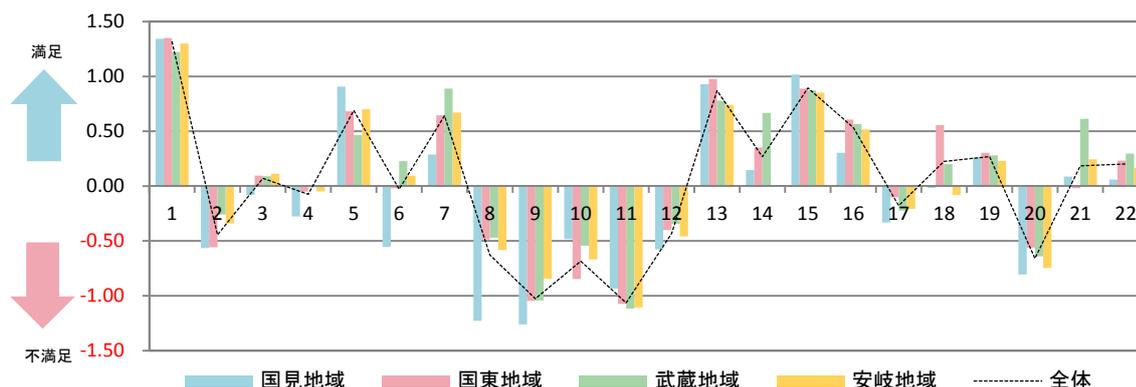
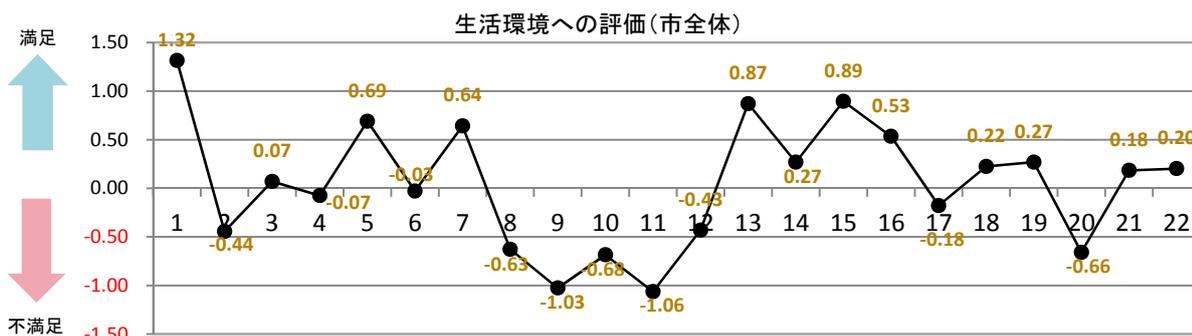
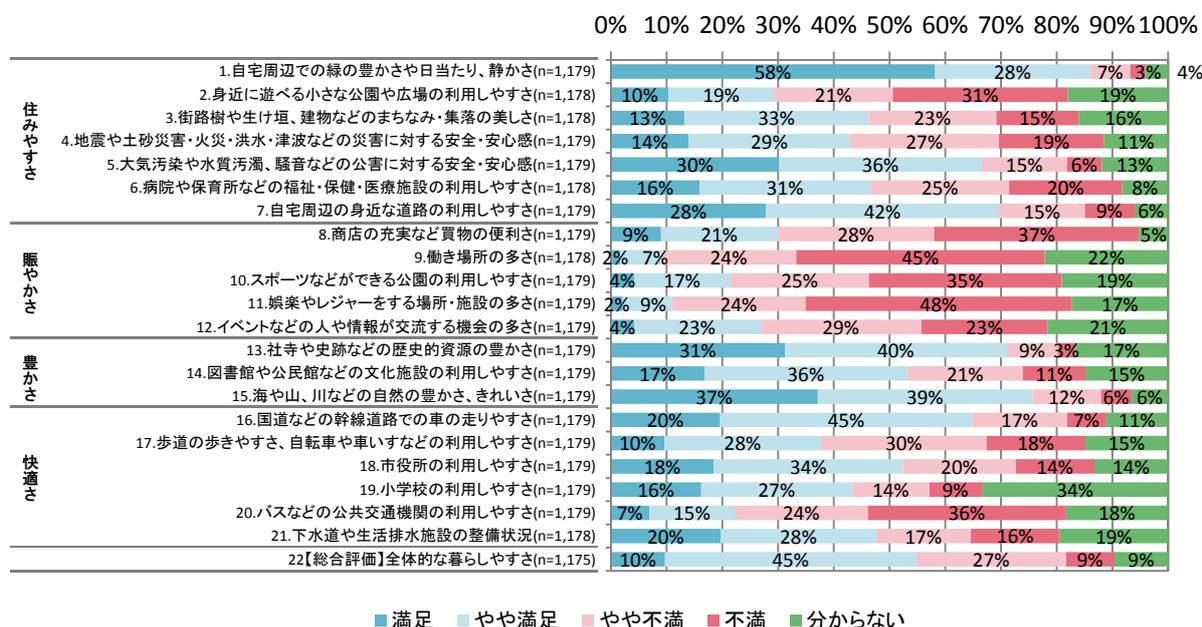
### ③現在の生活環境について

#### 【生活環境への評価】<市民>

満足度（満足、やや満足の合計）は、「自宅周辺での緑の豊かさや日当たり、静かさ」が最も高く、次いで「海や山、川などの自然の豊かさ、きれいさ」「寺社や史跡などの歴史的資源の豊かさ」と続きます。

一方、不満足度（不満、やや不満の合計）は、「娯楽やレジャーをする場所・施設の多さ」が最も高く、「働き場所の多さ」「商店の充実など買物の便利さ」「バスなどの公共交通機関の利用しやすさ」が続きます。

地域別にみると、国見地域における「病院や保育所などの福祉・保健・医療施設の利用しやすさ」「商店の充実など買物の便利さ」「働き場所の多さ」の満足度は、他の地域よりも突出して低くなっています。

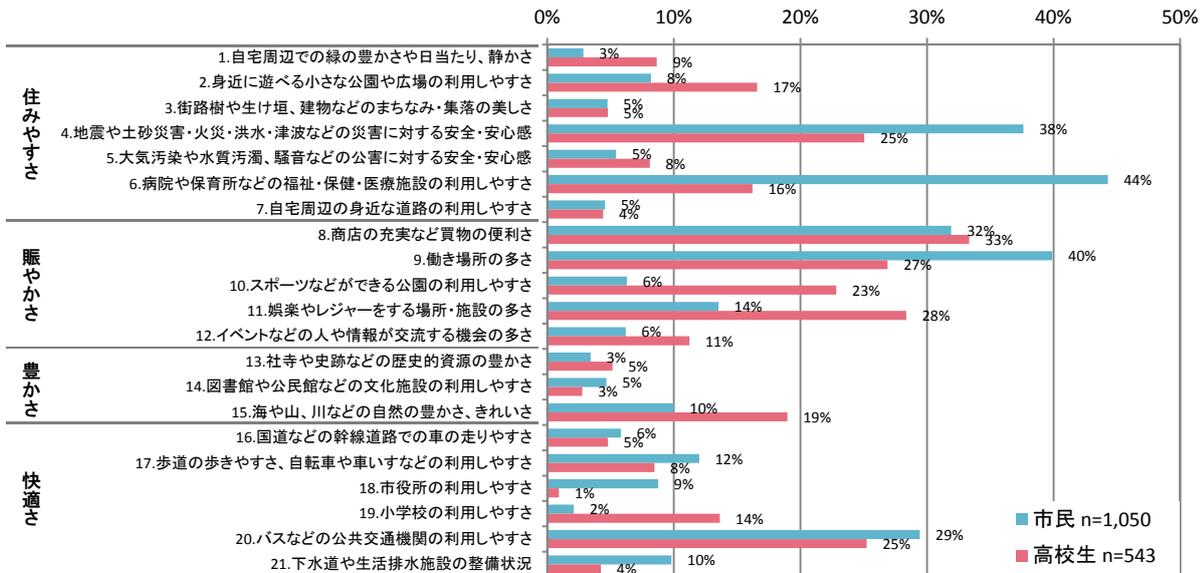


## 【今後のまちづくりにおいて特に大事だと考えられるもの】〈市民・高校生〉

市民では、「病院や保育所などの福祉・保健・医療施設の利用しやすさ」が最も多く、「働き場所の多さ」「地震や土砂災害・火災・洪水・津波などの災害に対する安全・安心感」「商店の充実など買物の便利さ」と続きます。

高校生は、「商店の充実など買物の便利さ」が最も多く、「娯楽やレジャーをする場所・施設の多さ」「働き場所の多さ」と続きます。両者ともに買物の利便性や働き場所の多さを重要視していることがうかがえます。

今後のまちづくりにおいて特に大事だと考えられるもの(市民・高校生)

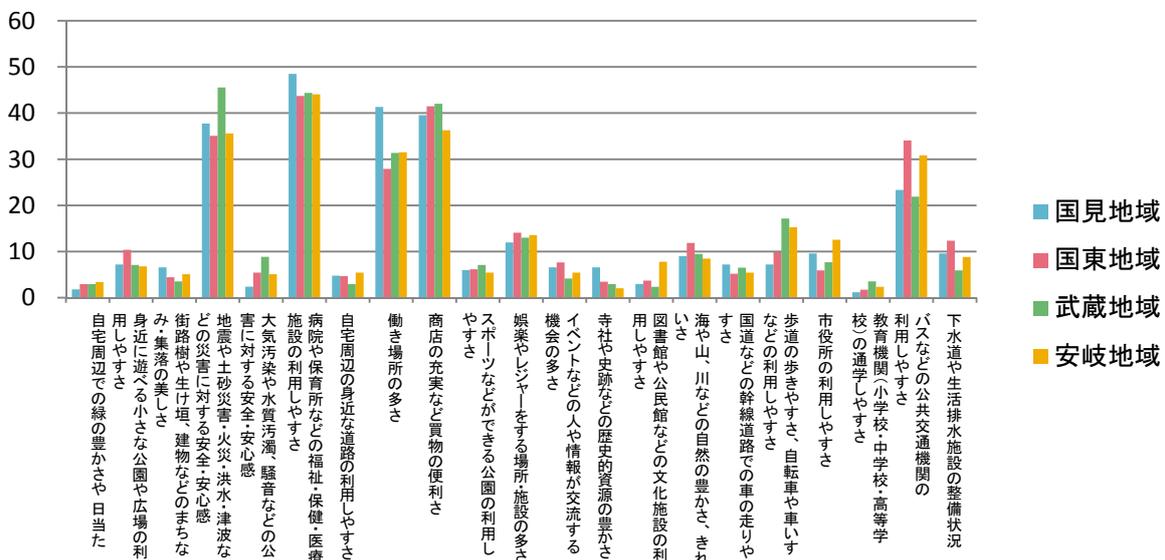


## (地域別)

国見地域では、「商店の充実など買物の便利さ」への回答が他の地域に比べて多く、武蔵地域では、「地震や土砂災害・火災・洪水・津波などの災害に対する安全・安心感」への回答が他の地域に比べて多くなっています。

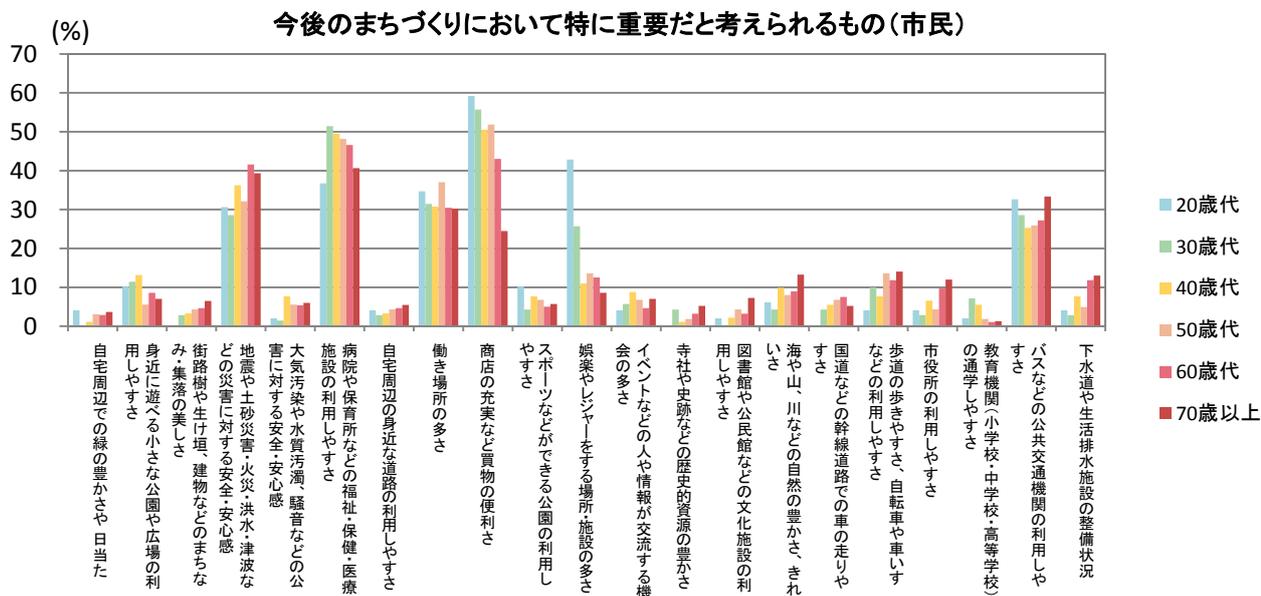
国東地域や安岐地域では、「バスなどの公共交通機関の利用しやすさ」への回答が他の地域に比べて多くなっています。

(%) 今後のまちづくりにおいて特に重要だと考えられるもの(市民)



## (年齢別)

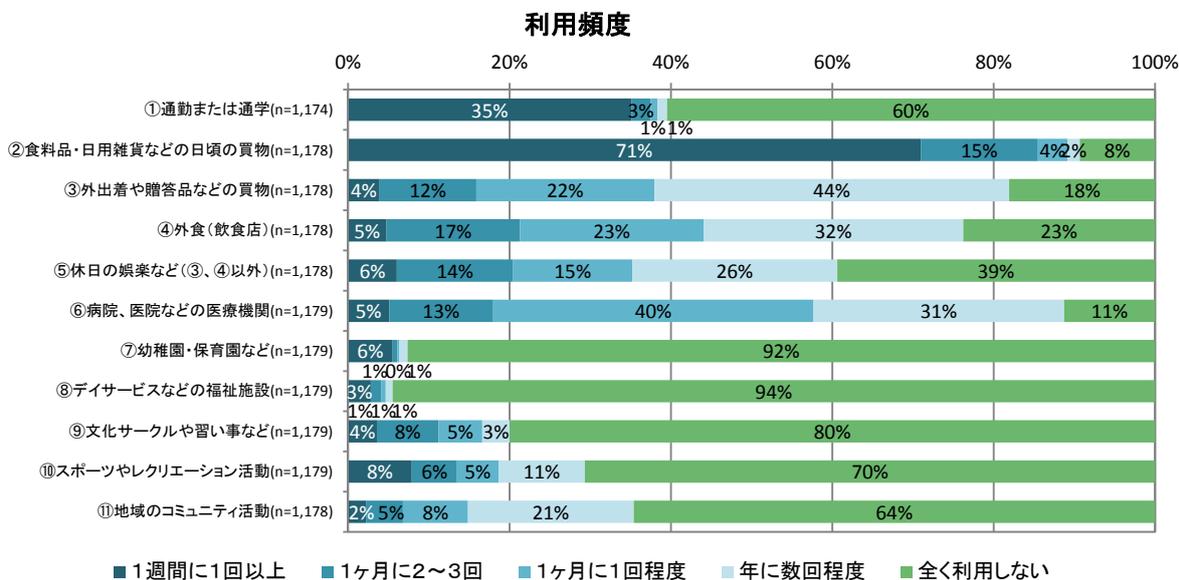
年齢が低くなるほど、「働き場所の多さ」や「娯楽やレジャーをする場所・施設の多さ」を重要と考える回答が多くなっています。



## 【日常の活動場所の頻度、主な行き先、主な交通手段】<市民>

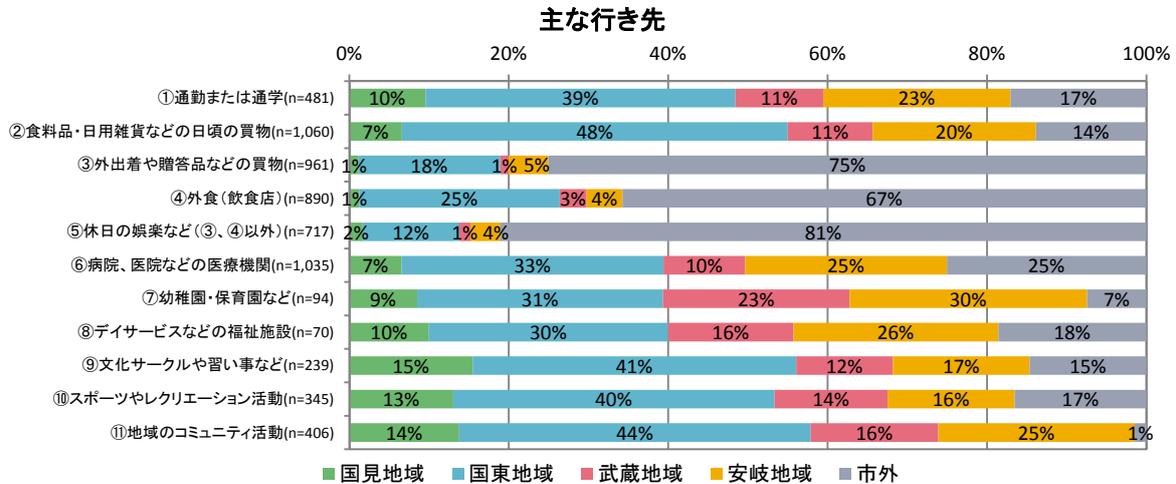
### (頻度)

頻度の高い活動場所は、「食料品・日用雑貨などの日頃の買物」「通勤または通学」であり、1週間に1回以上という回答が多くを占めます。「病院、医院などの医療機関」「外出着や贈答品などの買物」「外食」「休日の娯楽など」は、1ヶ月に1回から年に数回程度の頻度となっています。



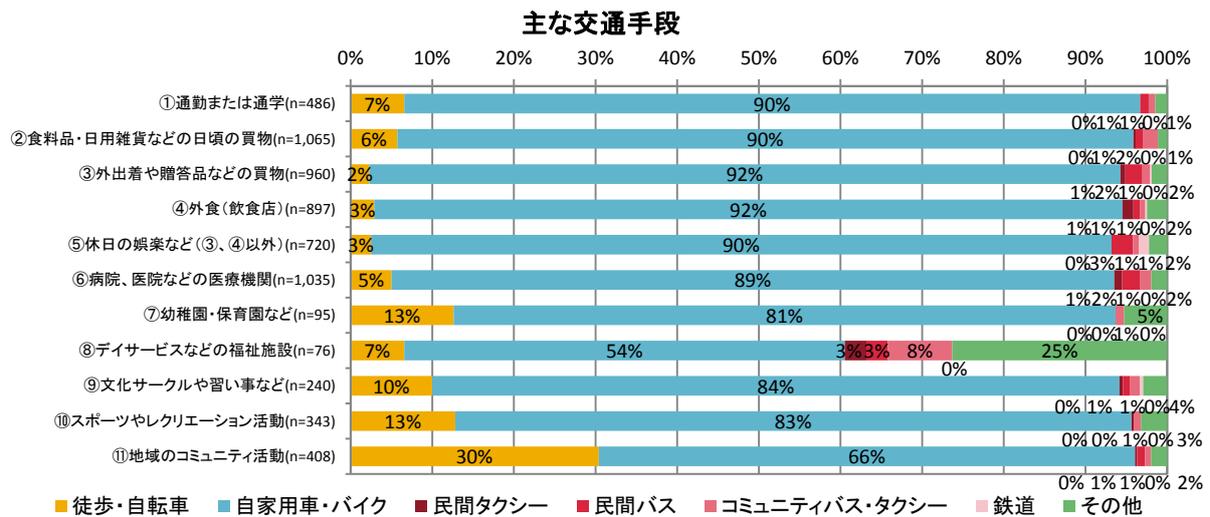
## （主な行き先）

「外出着や贈答品などの買物」「外食」「休日の娯楽など」は、市外に行く回答が多くを占め、その他の施設は、国東地域が最も多く、次いで安岐地域、武蔵地域、国見地域の順となる傾向にあります。



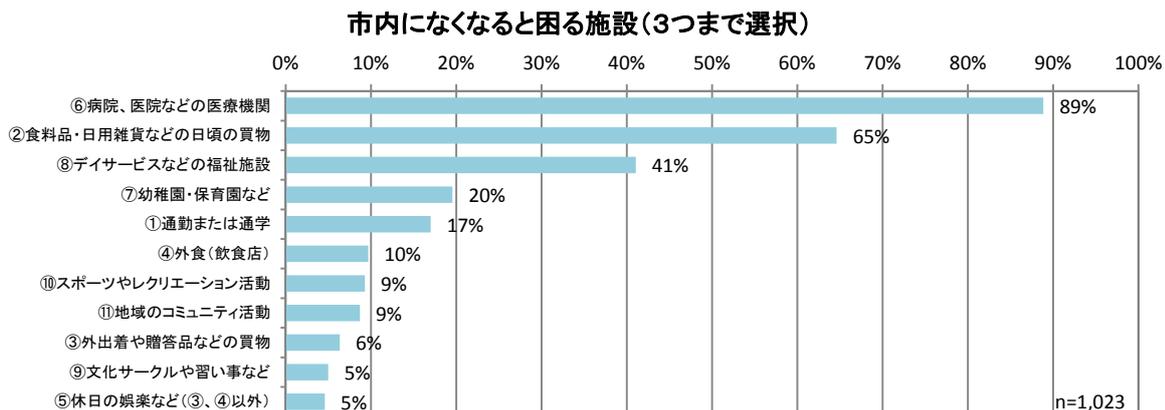
## （主な交通手段）

全ての項目で「自家用車・バイク」を利用する回答が大半を占めています。



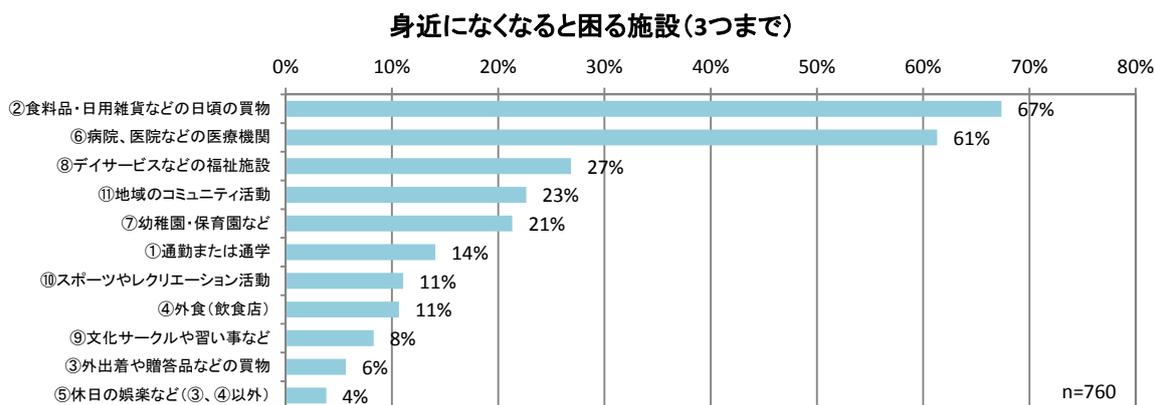
## 【市内になくなると困る施設】<市民>

「病院・医院などの医療機関」が最も多く、次いで「食料品・日用雑貨などの日頃の買物」「デイサービスなどの福祉施設」が続いています。



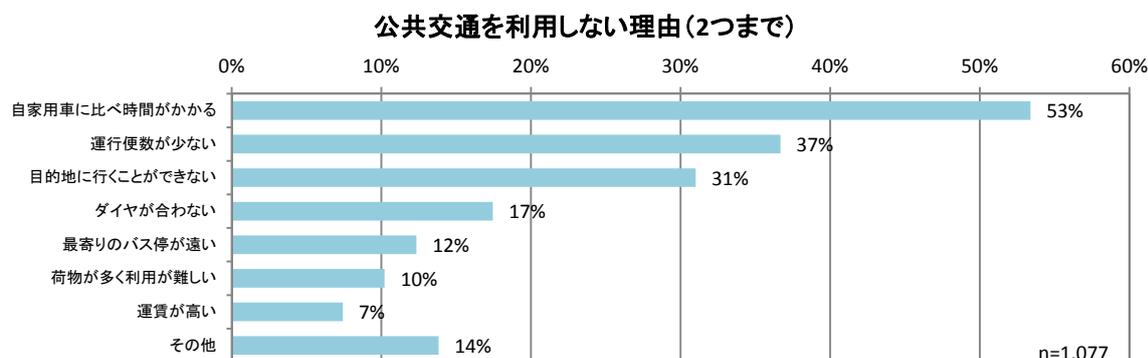
## （身近になくなると困る施設）

「食料品・日用雑貨などの日頃の買物」が最も高く、「病院、医院などの医療機関」が続きます。



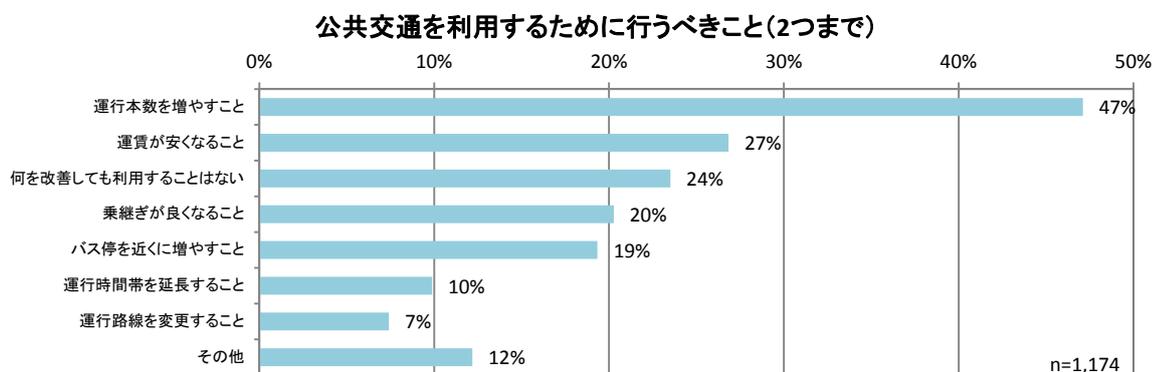
## 【公共交通を利用しない理由】<市民>

「自家用車に比べ時間がかかる」が最も多く、次いで「運行便数が少ない」「目的地に行くことができない」と続いています。



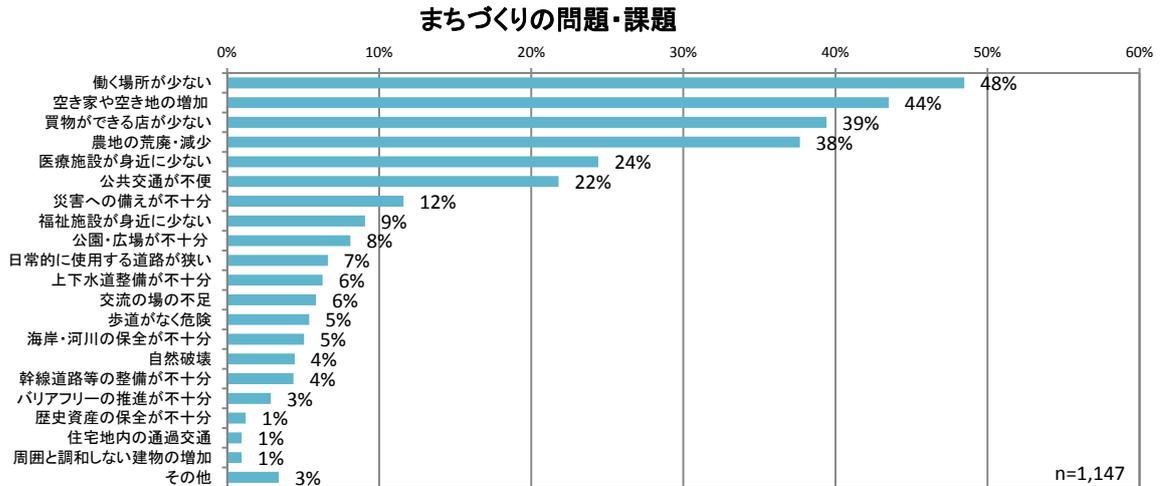
## 【公共交通を利用するために行うべきこと】<市民>

「運行本数を増やすこと」が最も多く、次いで「運賃が安くなること」「何を改善しても利用することはない」と続いています。



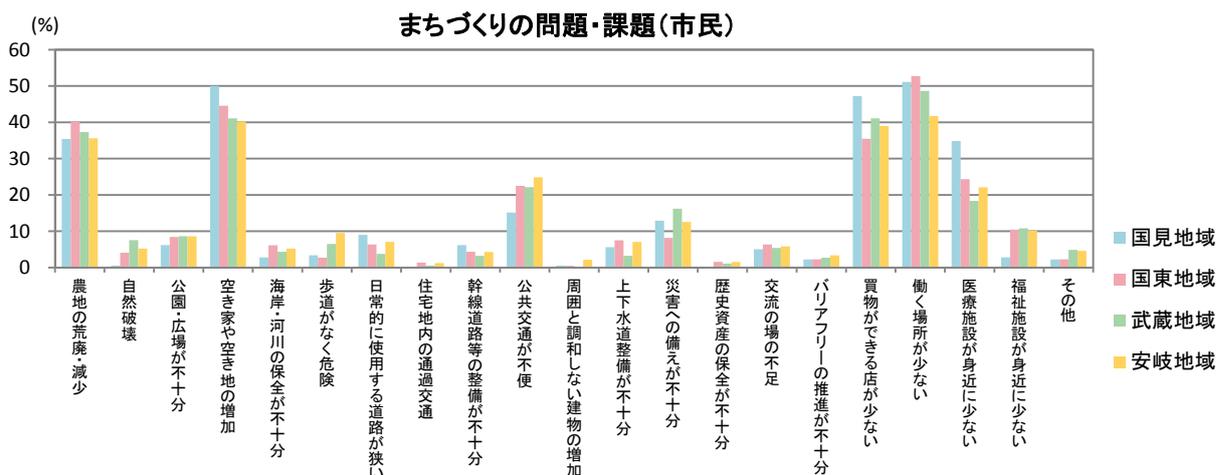
## 【まちづくりの問題・課題】<市民>

「働く場所が少ない」が最も多く、次いで「空き家や空き地の増加」「買物ができる店が少ない」「農地の荒廃・減少」と続きます。



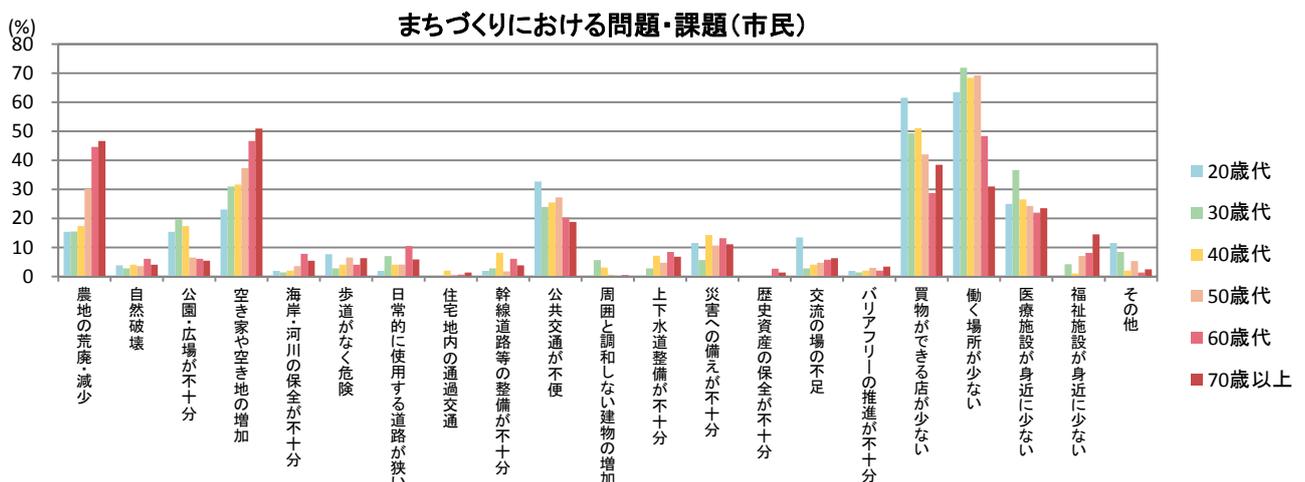
## （地域別）

国見地域では、「空き家や空き地の増加」「買物ができる店が少ない」「医療施設が身近に少ない」といった回答が、他の地域に比べ多くなっています。



## （年齢別）

年齢が高くなるほど、「農地の荒廃・減少」や「空き家や空き地の増加」を問題視する回答が多くなっています。一方、年齢が低くなるほど、「買物ができる店が少ない」「働く場所が少ない」「公共交通が不便」といった回答が多くなっています。

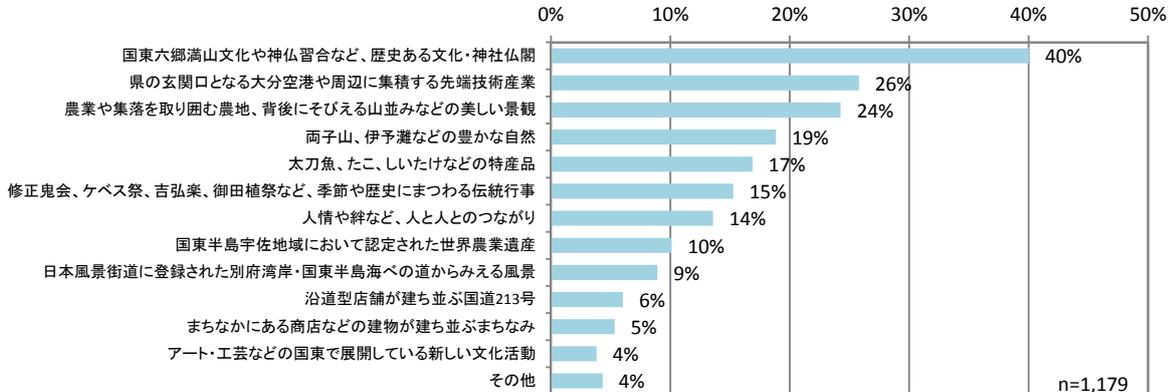


#### ④国東市の都市づくりのあり方

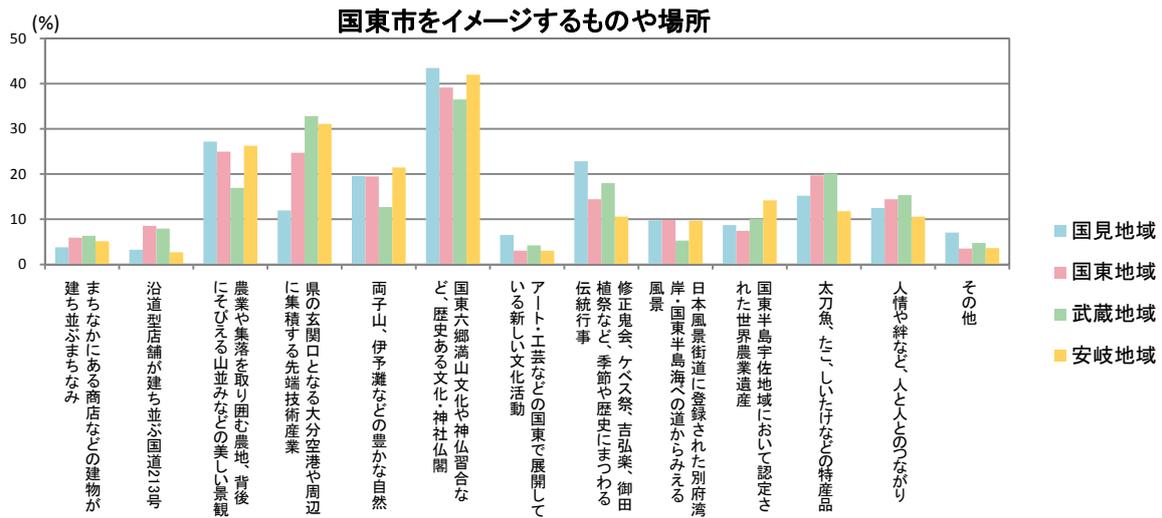
##### 【国東市をイメージするものや場所】<市民>

「国東六郷満山文化や神仏習合など、歴史ある文化・神社仏閣」が最も高く、次いで「県の玄関口となる大分空港や周辺に集積する先端技術産業」、「農業や集落を取り囲む農地、背後にそびえる山並みなどの美しい景観」と続いています。

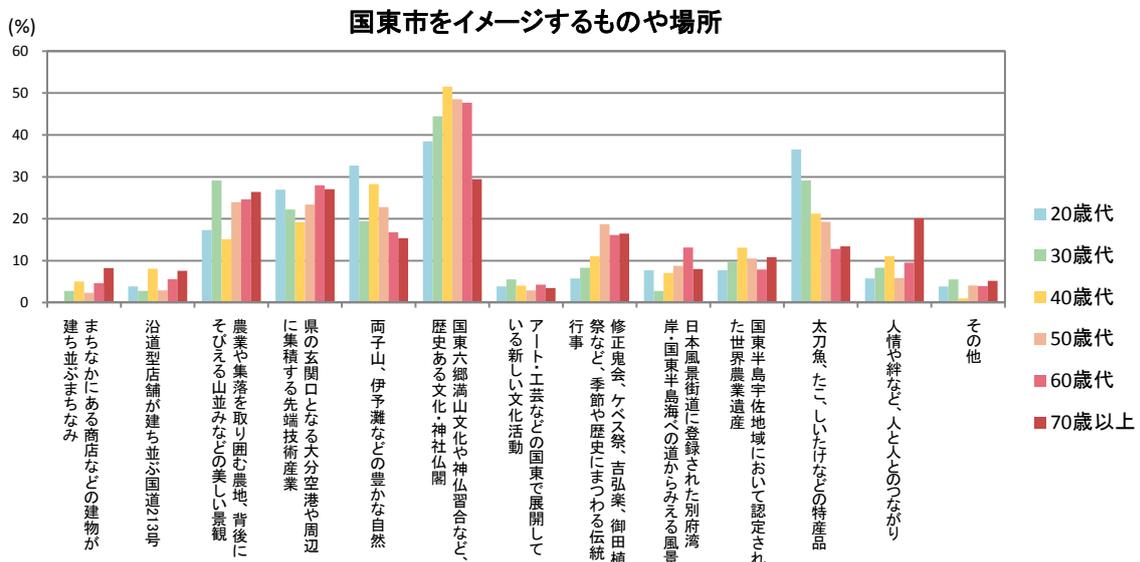
国東市をイメージするものや場所(2つまで)



##### (地域別)

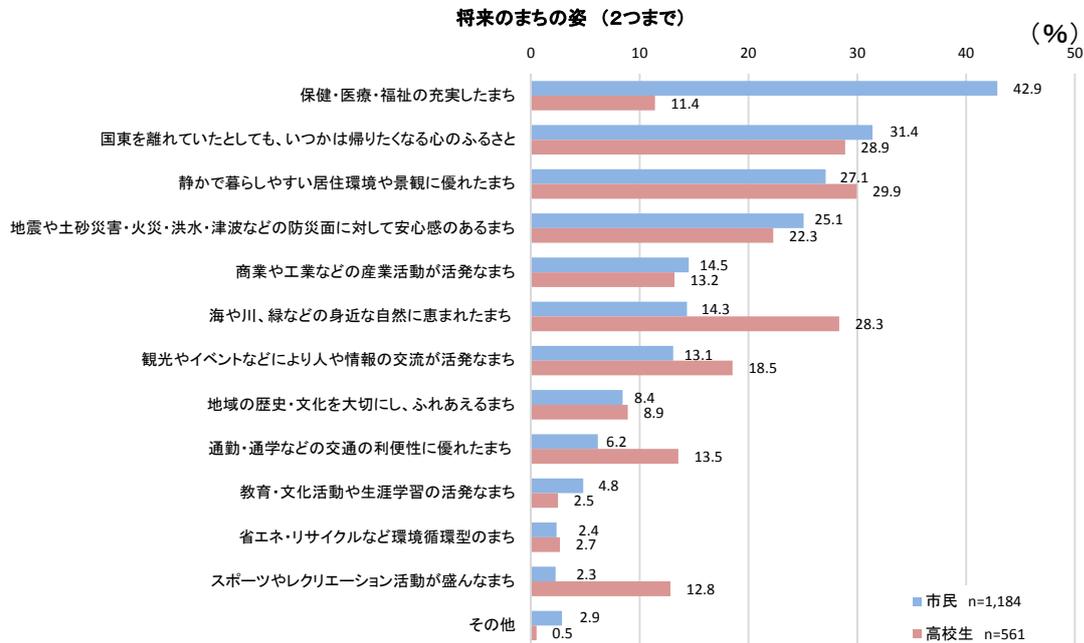


##### (年齢別)



## 【将来のまちの姿】〈市民・高校生〉

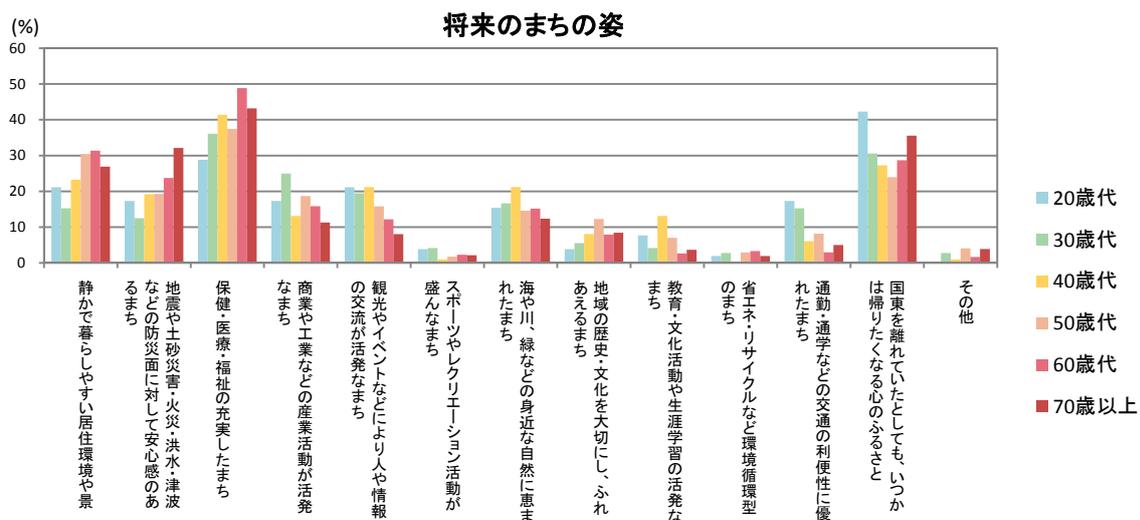
20歳以上の市民では「保健・医療・福祉の充実したまち」、「国東を離れていたとしても、いつかは帰りたくなる心のふるさと」と続き、景観に関する回答項目である「静かで暮らしやすい居住環境や景観に優れたまち」は次いで三番目に多い結果となっています。まちづくりにおいても、景観が重視されていることがうかがえます。



## （年齢別）

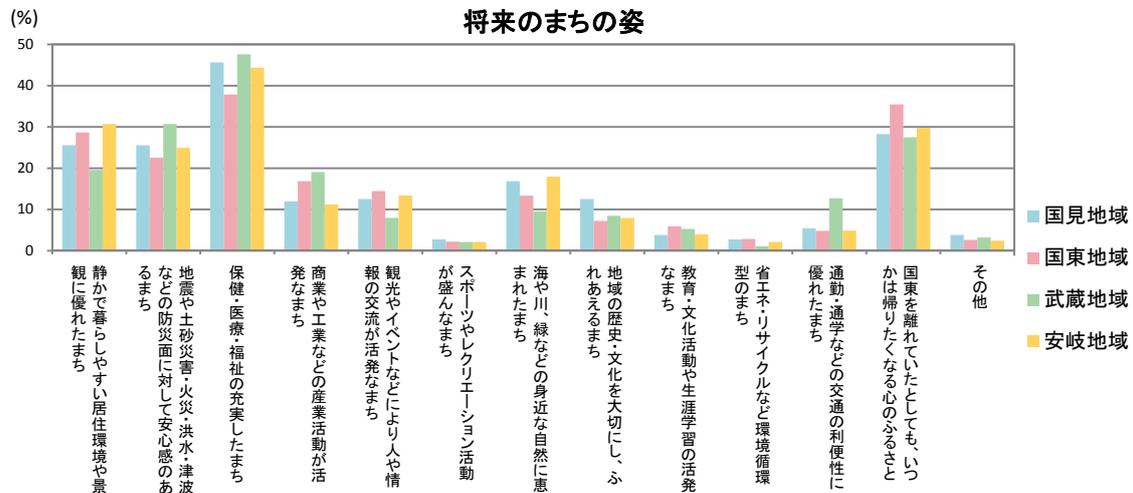
年齢が高くなるほど、「保健・医療・福祉の充実」への回答が多い傾向となっています。

40歳代以上の中老年層は、30歳代以下に比べ、「静かで暮らしやすい居住環境や景観に優れたまち」を回答する人が多い傾向がうかがえます。20歳代では、「国東を離れていたとしても、いつかは帰りたくなる心のふるさと」が高く、国東市への愛着がうかがえます。



## (地域別)

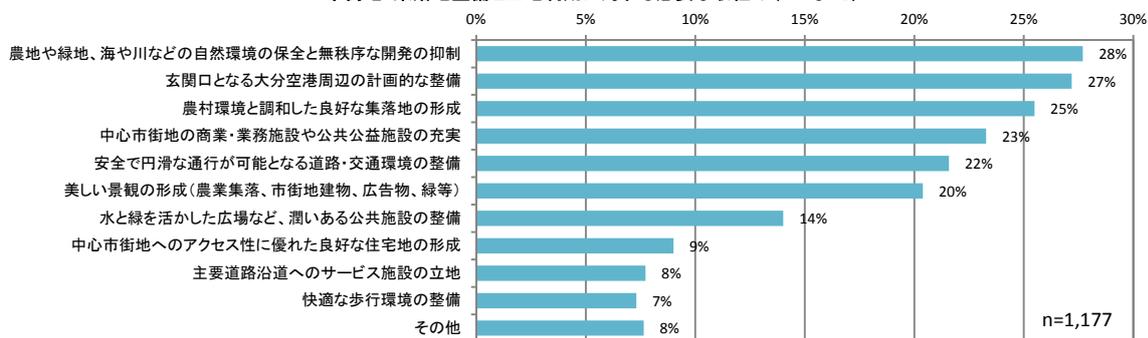
国東地域では、他の地域に比べて、「国東を離れていたとしても、いつかは帰りたくなる心のふるさと」が高く、国東市への愛着がうかがえます。武蔵地域では、他の地域に比べて、「通勤・通学などの交通利便性に優れたまち」が高くなっています。



## 【市街地・集落地整備と土地利用に対する必要な取組み】<市民>

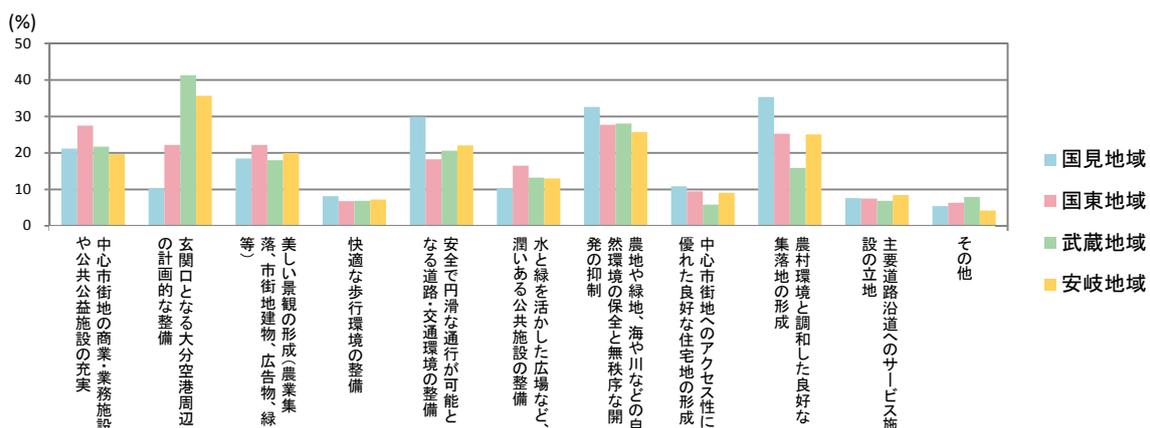
「農地や緑地、海や川などの自然環境の保全と無秩序な開発の抑制」が最も高く、次いで「玄関口となる大分空港周辺の計画的な整備」「農村環境と調和した良好な集落地の形成」と続きます。

市街地・集落地整備と土地利用に対する必要な取組み(2つまで)



## (地域別)

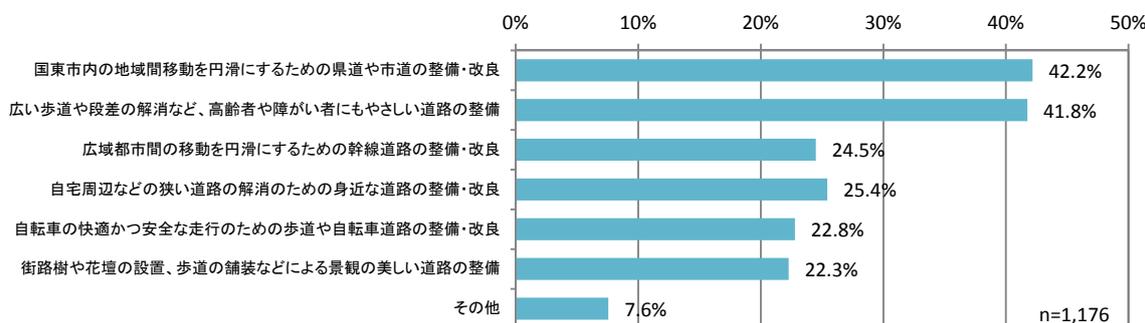
空港周辺に位置する武蔵地域や安岐地域では、「玄関口となる大分空港周辺の計画的な整備」が必要という回答が多い。国見地域では、他の地域に比べ、「農地や緑地、海や川などの自然環境の保全と無秩序な開発の抑制」「農村環境と調和した良好な集落地の形成」といった自然環境、集落環境の維持・形成に関する回答が多く見られます。



## 【道路整備に対する必要な取組み】<市民>

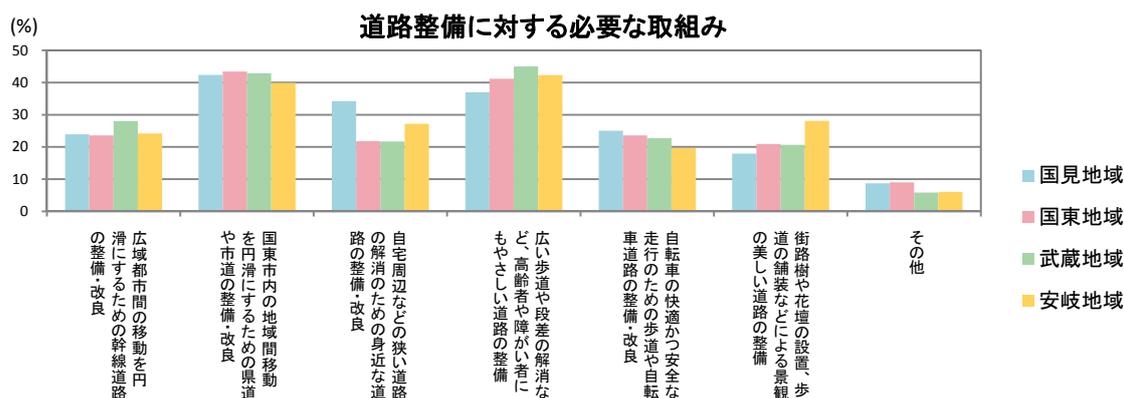
「国東市内の地域間移動を円滑にするための県道や市道の整備・改良」が最も高く、次いで「広い歩道や段差の解消など、高齢者や障がい者にもやさしい道路の整備」が高くなっています。

道路整備に対する必要な取組み(2つまで)



## (地域別)

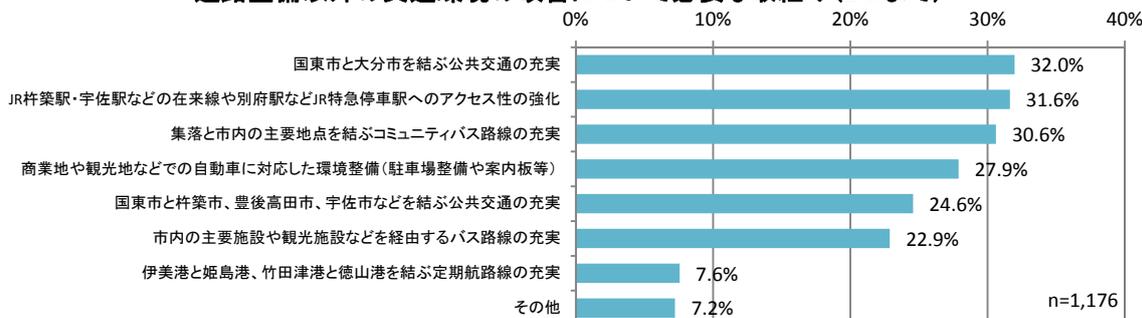
国見地域では、他の地域に比べて、「自宅周辺などの狭い道路の解消のための身近な道路の整備・改良」が高く、安岐地域では、「街路樹や花壇の設置、歩道の舗装などによる景観の美しい道路の整備」が高くなっています。



## 【道路整備以外の交通環境の改善について必要な取組み】<市民>

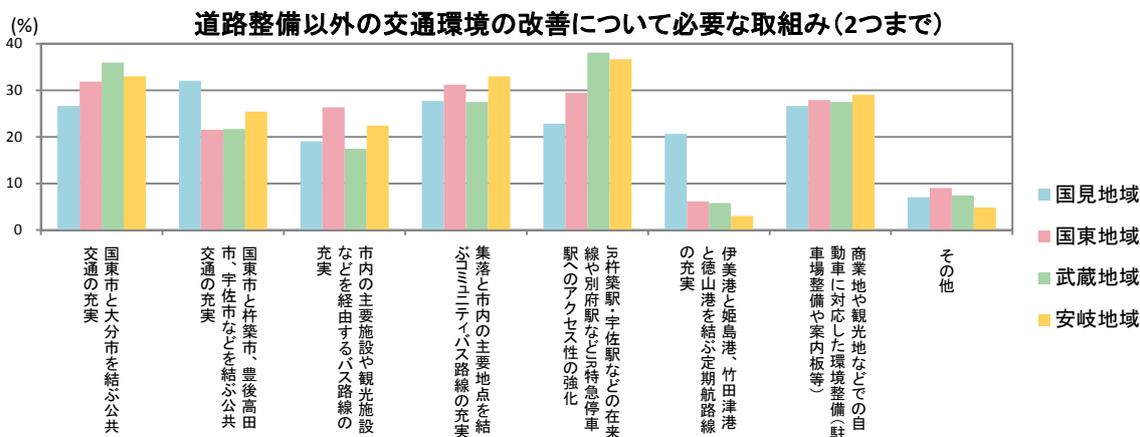
「国東市と大分市を結ぶ公共交通の充実」、「JR 杵築駅・宇佐駅などの在来線や別府駅など JR 特急停車駅へのアクセス性の強化」、「集落と市内の主要地点を結ぶコミュニティバス路線の充実」が高くなっています。

道路整備以外の交通環境の改善について必要な取組み(2つまで)



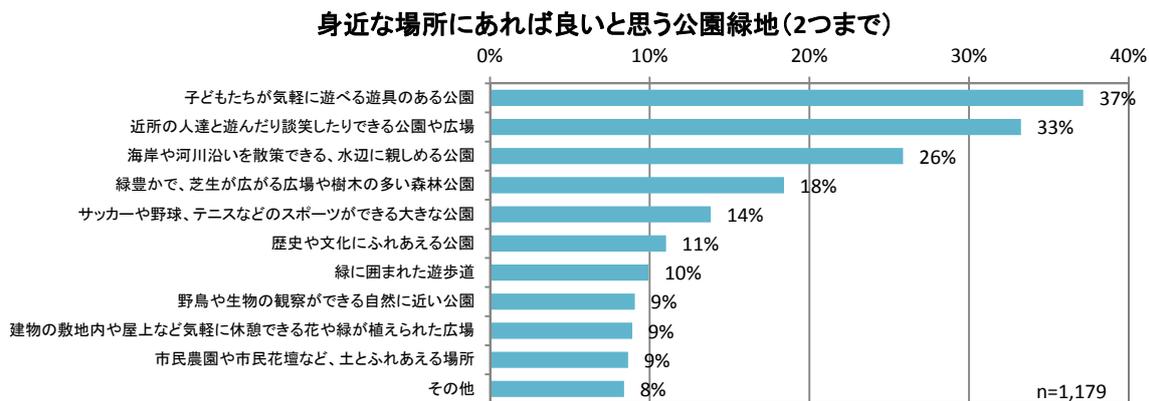
## （地域別）

武蔵地域や安岐地域では、他の地域に比べ、「JR 杵築駅・宇佐駅などの在来線や別府駅などの JR 特急停車駅へのアクセス性の強化」が高く、国見地域では、「国東市と杵築市、豊後高田市、宇佐市などを結ぶ公共交通の充実」が高くなっています。



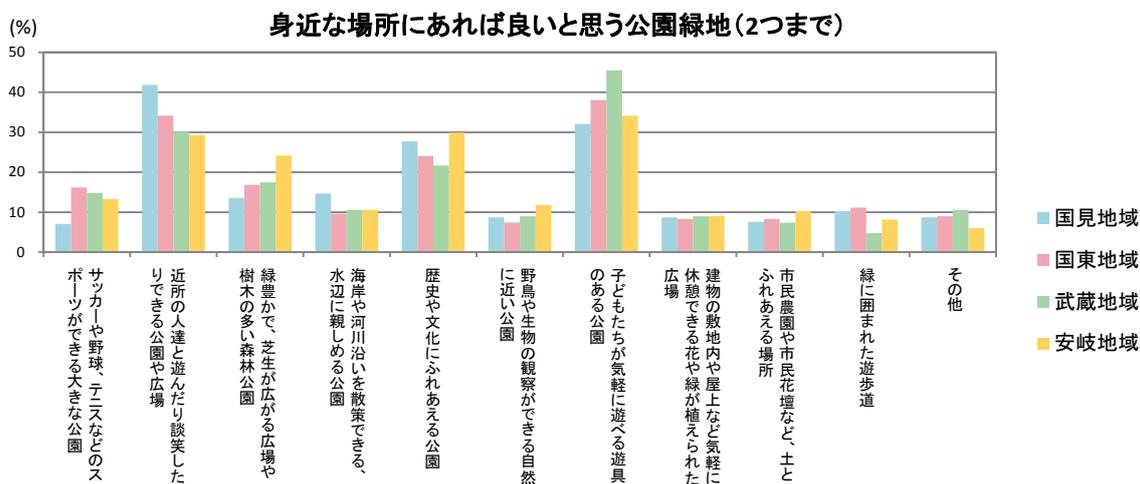
## 【身近な場所であれば良いと思う公園緑地】<市民>

「子どもたちが気軽に遊べる遊具のある公園」が最も高く、次いで「近所の人達と遊んだり談笑したりできる公園や広場」、「海岸や河川沿いを散策できる、水辺に親しめる公園」と続いています。



## （地域別）

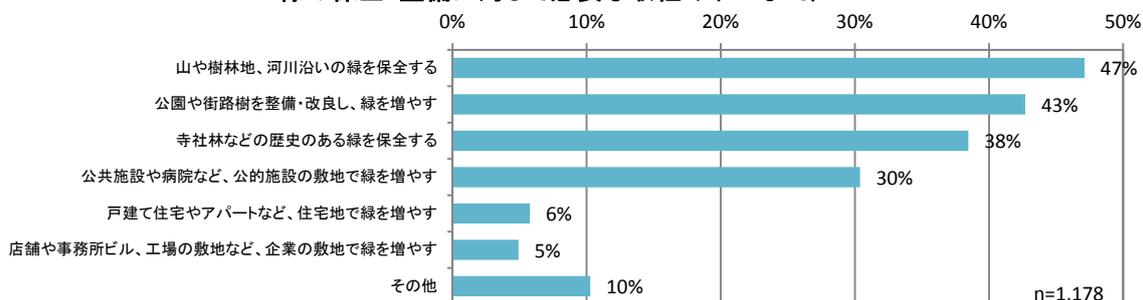
国見地域では、他の地域に比べて、「近所の人達と遊んだり談笑したりできる公園や広場」が高く、武蔵地域では、「子どもたちが気軽に遊べる遊具のある公園」が高くなっています。



## 【緑の保全・整備に対して必要な取組み】<市民>

「山や樹林地、河川沿いの緑を保全する」が最も高く、次いで「公園や街路樹を整備・改良し、緑を増やす」、「寺社林などの歴史のある緑を保全する」が続いています。

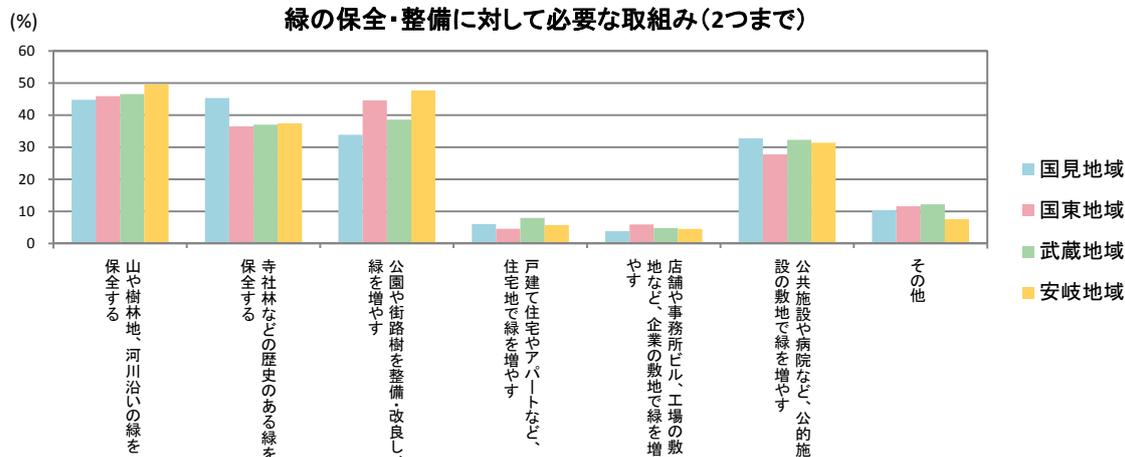
緑の保全・整備に対して必要な取組み(2つまで)



## (地域別)

国見地域では、他の地域に比べて、「寺社林などの歴史のある緑を保全する」が高く、国東地域や安岐地域では、「公園や街路樹を整備・改良し、緑を増やす」が高くなっています。

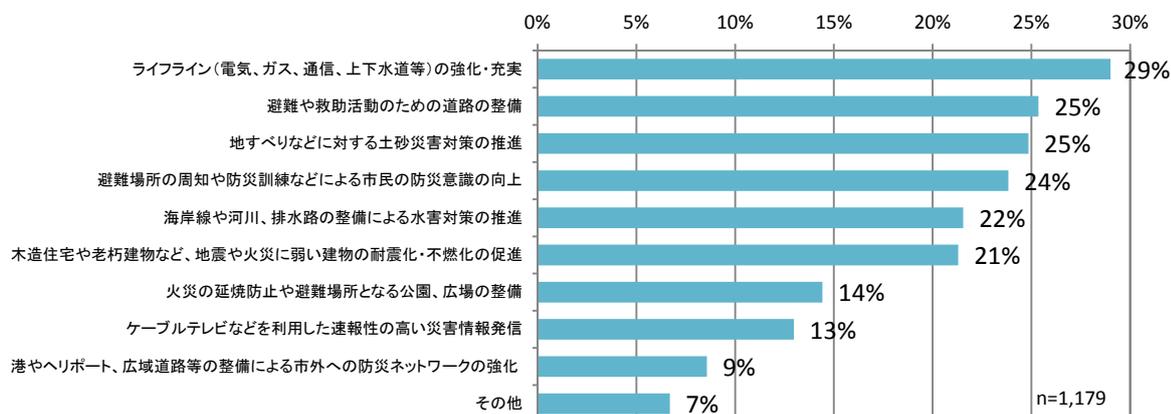
緑の保全・整備に対して必要な取組み(2つまで)



## 【災害に対して安全なまちづくりを進めるために必要な取組み】<市民>

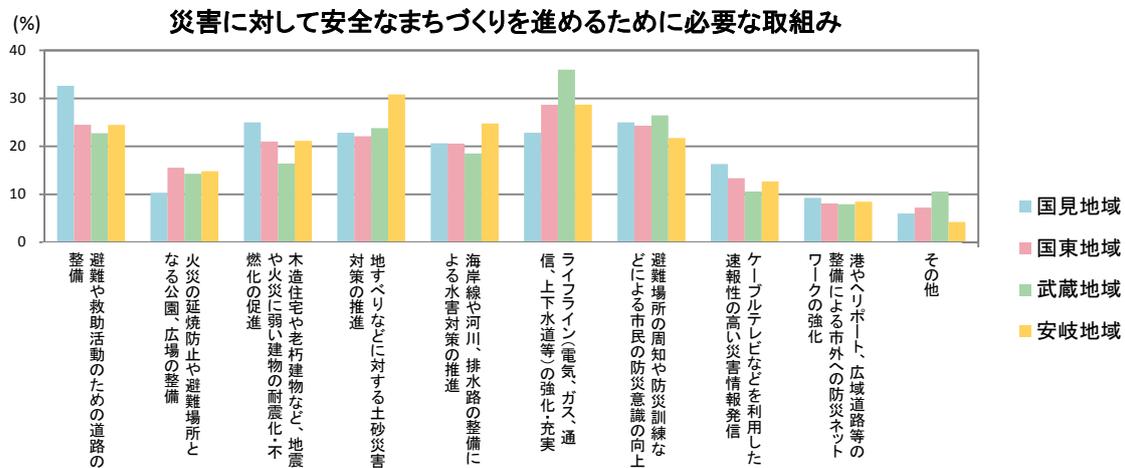
「ライフライン（電気、ガス、通信、上下水道等）の強化・充実」が最も高く、次いで「避難や救助活動のための道路の整備」、「地すべりなどに対する土砂災害対策の推進」、「避難場所の周知や防災訓練などによる市民の防災意識の向上」が高くなっています。

災害に対して安全なまちづくりを進めるために必要な取組み(2つまで)



## （地域別）

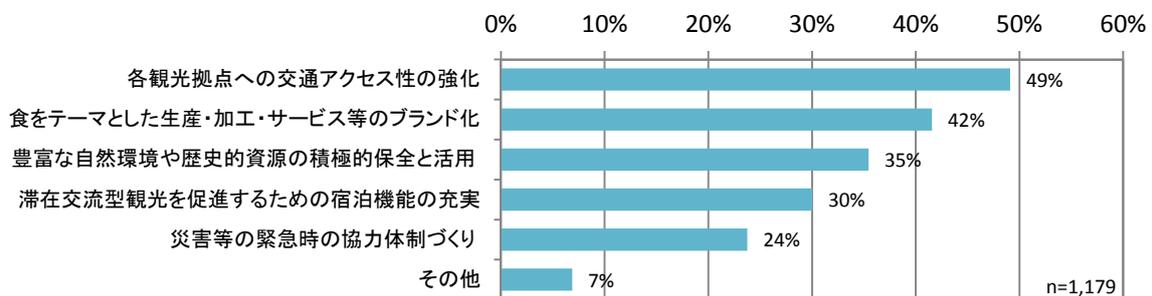
国見地域では、他の地域に比べて、「避難や救助活動のための道路の整備」が高く、武蔵地域では、「ライフライン（電気、ガス、通信、上下水道）の強化・充実」、安岐地域では、「地すべりなどに対する土砂災害対策の推進」が高くなっています。



## 【国東半島全体の魅力を高めるために必要な取組み】<市民>

「各観光拠点への交通アクセス性の強化」が最も高く、「食をテーマとした生産・加工・サービス等のブランド化」、「豊富な自然環境や歴史的資源の積極的保全と活用」が続きます。

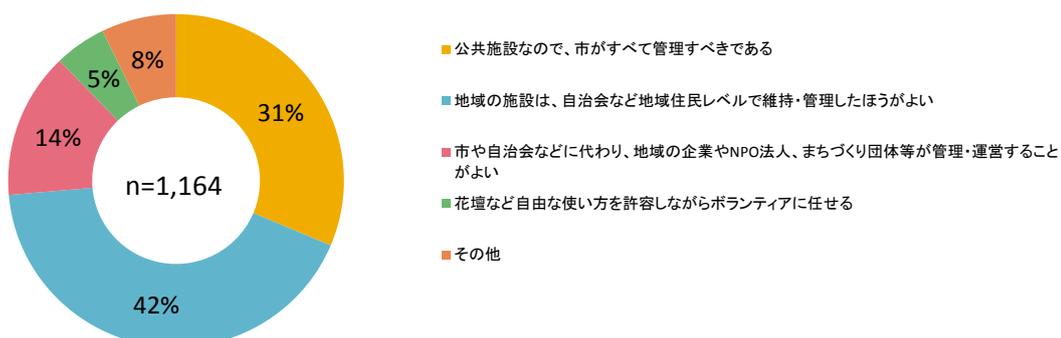
### 国東半島全体の魅力を高めるために必要な取組み(2つまで)



## 【公共施設の維持管理のあり方】<市民>

「地域の施設は、自治会など地域住民レベルで維持・管理したほうがよい」、「市や自治会などに代わり、地域の企業やNPO法人、まちづくり団体等が管理・運営することがよい」、「花壇など自由な使い方を許容しながらボランティアに任せる」といった市でなく地域が維持管理すべきという回答が、全体の約6割を占めています。

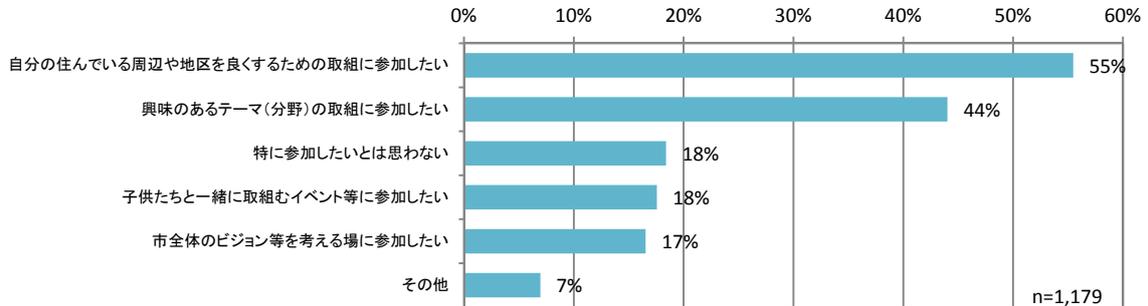
### 公共施設の維持管理のあり方について(1つ)



### 【まちづくりへの参加意向】＜市民＞

「自分の住んでいる周辺や地区を良くするための取組に参加したい」が最も高く、次いで「興味のあるテーマ（分野）の取組に参加したい」が続きます。「特に参加したいとは思わない」が18%にとどまり、まちづくりへの参加意向の高さがうかがえます。

まちづくりへの参加意向(2つまで)



### 【住みやすい環境をつくるためのルールの必要性】＜市民＞

「地域の方々が賛成であれば、ルールをつくった方が良い」が約半数を占め、「個人の権利を制限することになると思うので、ルールは不要である」は1割程度にとどまり、多くの回答者がルールの必要性を感じていることがうかがえます。

住みやすい環境をつくるためのルールの必要性

